

## はじめに

建築に求められるニーズは時の経過と共に変化します。建築を過度に要求条件に即したものと設計すると、竣工直後は最適かもしれませんが、社会が変化したり家族構成が変化したりすると、ずれが生じて使いにくくなりがちです。社会の変化に対応して建物を使い続けるためには、建物に適度な柔軟性が求められます。洋服のように体形が少し変わると着づらくなるのではなく、太っても痩せても着こなすことが出来る日本の着物のように、建築の設計においても、多少、余裕を持たせて設計しておくことが、長い目で見て有効です。社会の変化に「しなやかに対応できる建築」は、長く使い続けることが出来ます。

1971年から1973年まで英国王立建築家協会の会長を務めたSir Alexander John Gordon氏は、折に触れて「Long Life, Loose Fit, Low Energy」と述べていました。イギリスは日本に比べて建築を長く使う国ですが、彼は建物の骨格は長寿命に、内装・設備はLoose Fit、つまりゆとりを持たせて変化できるように計画することを提案したのです。機械設計では、軸の外径よりそれが収まる穴の内径が多少大きく、隙間がある納まりをLoose-Fit（すきまばめ）と呼びます。同じ様に、建築を要求条件に厳密に適合した最適設計にするのではなく、少し余裕（ゆとり）を持たせた設計にして、ニーズの変化に対応して内装・設備を改修しながら、長く使用することを提案したのです。その結果、建物本体は長期に渡って使われることになり、結果的に省資源で省エネルギーになります。日本ではスケルトン・インフィルと呼ばれるこの手法は、建築と時間の関係を示す考え方として広く知られています。

高度経済成長期の日本では、都市を構成する建物は頻繁に建て替えられてきましたが、一般的には数十年以上、場合によっては100年以上、建物は使用できます。欧州の歴史的街区では、伝統的な景観を保ちながら、何世紀にも渡って、少しずつ建物が更新されてきました。歴史的街区では一つ一つの敷地が小さく、「きめの細かい都市構造（fine grained urban fabric）」をしています。一方、近年の都市開発は効率化が追求されて、大規模な街区に大きな建築が建てられています。大規模開発は時代の変化に柔軟に対応できないことが多く、何棟もの中高層住宅が立ち並ぶ大規模住宅団地では、容易に建替えができずに困っています。都市

も建築も、長い時間の中では、更新が避けられません。都市も、建築も、建築の内装も、決してスタティックなものではなく、時間の経過とともに変化するものです。都市、街区、画地と建築の関係を適切なものにすることが、全面的な解体による建て替えではなく、少しずつ、歴史や伝統を継承しながら、しなやかに建物を更新することを可能にします。

本書はこのような考え方にに基づき、都市や建築における「時間の変化」の本質を見出すことを目指しています。集合住宅のリノベーションや、建築のコンバージョン（用途変更）、公共建築の再編など、現代社会の課題をテーマとしていますが、通底する考えは、建築と人間の生活の相互作用を観察し、そこに建築の本質を見出すという姿勢です。建築や住宅は人が使用し、住まう場所である以上、ニーズの変化に対応することが求められ、環境に対する関与（intervention）が起きます。その相互関係が、時間の経過とともに、どのような変化を見せるのか、それを分析することにより、人間と建築の関係の本質が見えてくるのではないかと思います、この本をまとめました。時代の変化に対応する都市や建築のあるべき姿を一言で表現して、「しなやかな建築」とのタイトルを本書に付けました。

世界各地には長い歴史を経た建築が存在しています。それらは古文書や絵画、彫刻、音楽などと同じように、先人が考えたことやその時代の社会の状況などを私たちに教えてくれるものです。私たちは、時を経て存在する世界各地の伝統的建築や町並みを読み解き、そこに先人が考えたことを見出し、現代、未来の社会に活かしていくべきだと思います。国内外の伝統的建築は、使用者の要求に応えるとともに、地域の気候風土や入手可能な資源などの制約条件に対応して、貴重な建築材料を大切に使い、長期にわたって建物を使用するための手法（知恵）を生み出してきました。それらの手法（知恵）は、時として暗黙知として存在していましたが、現代建築に应用することが可能な手法も含まれています。わが国の建設業は高度な技術に支えられていますが、それでも世界各地に残る伝統建築が有する数々の手法（知恵）の中から、参考とすべき設計手法を見出せるに違いありません。伝統建築の知恵を、未来の建築に活かす、「時と共に、しなやかに変化する建築」を実現する手法を考えることも本書の目的です。